

人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 1. 17

人・街・ながた震災資料室

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

1.17 震災を語り継ぐ

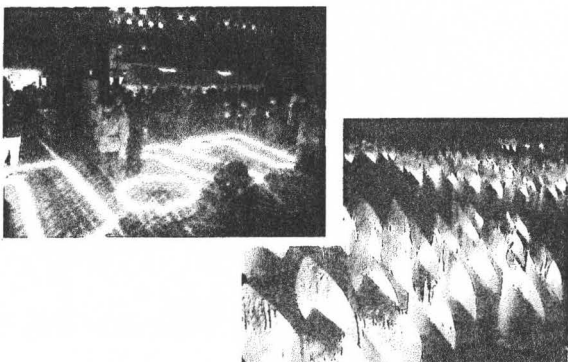
13回目の1月17日、人・街・ながた震災資料室は記帳にこられた方々に当時の記録を観ていただこうと「特別展示会」を区役所7階区民ギャラリーで催した。

会場正面に丸山中学校西野分校夜間中学の大時計を展示し、長楽小学校・蓮池小学校・真野小学校の避難所の状況と神戸学院大学生が分析した御蔵・菅原3・4丁目の震災前後の移り変わりを地図と写真で展示した。

震災前の写真は珍しく、会場では以前の町並みを懐かしむ声が聞かれた。

区内各地で

1・17の行事が行われました



○ 1・17で震災パネルを貸し出しました

- ・ 丸山中学校（防災教育）
- ・ 横浜市保土ヶ谷区役所（防災まちづくり）

防災とボランティア週間でパネルを展示し防災意識を高める催し。

京都・木津中学校生徒会の蓮池小訪問記録

田巻久仁夫さん寄贈

今回、寄贈されたのは写真2葉、学級通信（95. 2. 13号）、生徒会ニュース（95. 2. 15号、95. 2. 17号）そして田巻さん宛ての手紙2通だ。

95年2月11日、1800人が避難していた蓮池小学校へ京都府木津中学校の皆さんら9名が義援金と千羽鶴を持って訪ねて来られた。

千羽鶴は校舎玄関に吊り下げ、義援金は区役所災害対策本部へ届けられた。

交通手段が寸断されている中、道案内をされたのは会計室から応援に来られていた田巻さんで、住吉駅から鷹取駅へ行き、徒歩で学校まで来られた。きっかけは木津中の教諭の酒井弘さんが高校の同級だったのが縁だ。

生徒たちが長田の街を無言で歩き続けた様子を学級通信に述べられている。木村理恵さんの感想文の最後に「行って良かったと思うのは、外国人に『被害にあった外人に物を届けたいが、どこへ行けばよいか』と話かけられて、それをきちっと訳せた事」と書かれていた。

資料は蓮池小学校のファイルに保存して公開する。



義援金を届ける皆さん

KOBE ながたからの交流

◎2008年1月23日、福岡市より福岡市PTA協議会の方がPTA指導者研修により来神されました。12名の参加者のうち6名が長田区震災資料室を見学に訪れました。

資料室では、神戸学院大学・水本教授とゼミ生と受け入れ、7階の常設展示にて震災時の様子等を説明して意見交換をしました

福岡市教育委員会から同行された楠原 和彦さんは阪神・淡路大震災の時、自治労の支援活動により大橋中学校に1週間、避難所業務を担当されていて、楠原さんは「当時の街の様子が思い出される」と述べておられました。

PTA協議会から参加された方で「震災の時は尼崎市に居住されており、社宅がだめになり引越しをしました」と語られました。

皆さんは三年前の玄海沖地震を体験されており、今回の研修では、特に震災による児童のケアを中心に学び、PTA活動をつうじてPTA地域活動の中での一助にされることとしています。

24日には、神戸市立雲中小学校を訪問して、特別支援協力について話し合われる予定です。水本教授より、「雲中小学校には、震災後に復興担当教員として二葉小学校におられた佐々木先生がいます。児童のケアに心身共にあたられていました。」と紹介がありました。

短い時間での受け入れですが、PTA協議会の皆さんのひたむきな姿勢が伝わる交流となりました。

◎2007年12月19日、早稲田実業学校高等部から研修に来られました。

ライフラインの復旧・避難所生活の期間や苦勞・仮設住宅・復興の様子等震災当時の説明の中で、地域や学校の役割の大きさに驚いたようでした。

また震災後の神戸市での学校・地域が一体となった防災への取り組みの説明を受けると、地元から通う生徒が少ない中で地域との関わりの難しさ、災害時離れて住む家族との連絡等について話が広がり、いざというとき自分たちに何が出来るか、短い時間の中ながら今後のことを考えていくきっかけにしてくれたようでした。

◎2008年1月19日(土)、岐阜県公立小中学校事務職員組合主催「美濃・岐阜支部合同研修会」(研修生約30名)に講師として清水、田村が出席してきました。

こちらの組合では岐阜地域が東海地震の警戒区域に入っていることから、昨年から非常災害時に関する研修に取り組み、昨年度は地元消防の方を講師に研修をされたそうです。

今年度はぜひ「被災地の方からじかに話を聞きたい」ということで、私たち震災資料室に話が寄せられました。

「非常災害時に避難所となりうる学校施設の役割と日頃の心構え」という演題にもとづき、まずは「神戸市職員が写した1.17」のDVDを見ていただきました。震災当日の凄惨な状況の映像を目の当たりにし、時折涙ぐむ方の姿も見えました。

次に、避難所となった小学校について、地震発生からどのように体制作りをしていったか、どのような問題が起きたか、ボランティアは・・・など、資料と当時の日誌のコピーを使いながら話を進めました。

休憩と資料室の概要説明を途中にはさみ、質疑応答の時間になると、災害時の出勤場所、備蓄食料、トイレから始まり、学校(授業)再開のタイミング、初動期の体制作り、家庭と仕事の折り合いのつけ方など、多岐にわたる質問が出され終了時刻間際まで活発な意見交換がなされました。

今回は学校側・行政側と立場の違いがある中での研修会でしたが、相手側の立場を知った上での避難所の体制作り・運営は即断を迫られる災害時には非常に有効であること、平常時よりそれを念頭に災害時の計画を作成することが大事であると感じました。

寄贈いただきました

シリーズ 災害と社会 災害社会学入門

〈大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編〉